

自分を大事にするとうんいん

4年 M・Fさん

私はこの本を読んで、「国の自然や風土がちがうと感じ方が違う。」というミンミンの言葉にハッとしました。なぜなら、この言葉通りのことを経験したことがあるからです。私は四年前までアメリカに住んでいました。住み始めたころは知らない言葉を話し、日本人と見た目がちがうアメリカ人がこわくて、いやでした。アメリカ人には肌の色が白い人や黒い人、目の色が青い人や金色の髪の毛の色の人など、いろいろな人がいます。中には見た目が日本人そっくりなアメリカ人もいますが、見た目は同じでもアメリカ人は日本人とは大きくちがうのです。

たとえば、アメリカ人は、友達の家の冷蔵庫を勝手にあけて飲み物を飲んだりします。それはアメリカではごく普通なことだ。「くつろいでいるよ、ありがとう。」の意味なのだそうですが、日本では普通どころか、逆にとてもマナーの悪いことですよ。ちょうどミンミンが悠介の家で勝手に料理を作った時のお母さんのように、最初は、私も私のお母さんもびびくりしていやな気持ちになったものです。だんだん慣れましたが。

この本にでてる悠介のお父さんとお母さんもたぶんこの時の私のような気持ちだったのかもしれない。相手の考え方や生き方が自分とちがっていやになってしまい、別々に暮らすようになってしまいました。そのせいで悠介は毎日がつまらなく、「やっつらんない…。」気持ちになってしまいました。そんな時、中国から悠介を訪ねてきたミンミンは、はっきりとした信念があり、自分のスタイルを押し通します。悠介のクラスメイトから言いがかりを付けられて、名前をからかわれた時にもあいまいにせず、あやまるように要求します。そしてミンミンは悠介に「もっと自分を大事にしなさい。自分を大事にしないと他の人を大事にできません。」と言ったのです。この言葉はとも私の心に残りました。意識をしていなくても、自分と見た目がちがう人や考え方がう人がいたら、距離を置いてしまいがちです。でも、自分が自分自身を大事にしているように、相手も相手自身を大事にしているのです。見た目や感じ方にちがいがあっても、相手も相手おたがいを理解しあうことができれば、生まれた国がちがっても、言葉がちがっても、友達になれるのではないでしゅうか。

私はまたいつかアメリカに行きたいと思っています。そして、たくさん友達を作り、いろいろな考え方を吸収して、日本に戻ってきたいと思っています。